



ペダルティンパニ / PEDAL TIMPANI / PEDALPAUKE /  
TIMBAL À PÉDALE / TIMBAL DE PEDAL / Педаль литавр /  
踏板式定音鼓 / 팀파니 페달

# TP8300 series / TP7300 series TP6300 series / TP4300 series

取扱説明書

Owner's Manual

Bedienungsanleitung

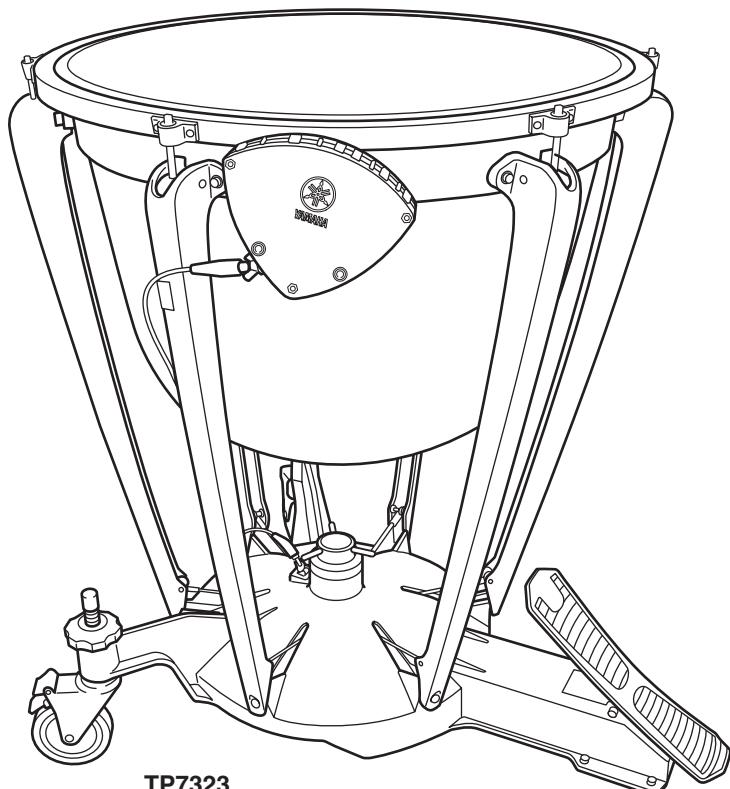
Mode d'emploi

Manual de instrucciones

Руководство пользователя

用户手册

사용설명서



日本語

English

Deutsch

Français

Español

Русский

中文

한국어

# 安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お子様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願いいたします。  
お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

## ■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、下表のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	~しないでくださいという「禁止」を示します。
	「必ず実行」してくださいという強制を示します。

## ■ 「警告」と「注意」について

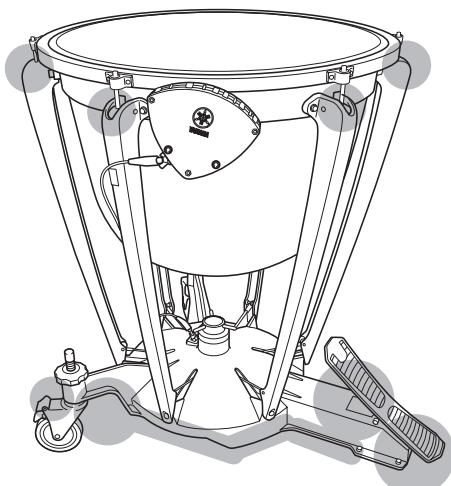
以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

	<b>警告</b> この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
	<b>注意</b> この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

## ⚠ 警告

### 取り扱い

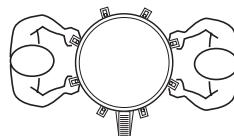
- 楽器にもたれかかったり、乗ったりしないでください。  
楽器が倒れて大けがをするおそれがあります。
- 楽器のまわりで遊ばないでください。  
身体をぶつけてけがをするおそれがあります。  
楽器の転倒の原因にもなります。お子様が楽器のまわりで遊ばないよう注意してください。
- ペダルの下やベース部分のすき間、キャスターのすき間などの可動部分には、絶対に手や足を入れないでください。  
はさまれて大けがをするおそれがあります。



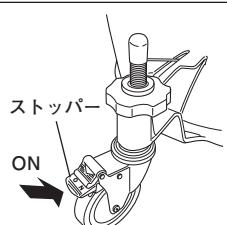
### 運搬 / 設置

- 楽器をぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。  
落ちたり倒れたりして、けがの原因となります。
- キャスターを利用してのティンパニの移動は、滑らかな平坦面でのみ行なってください。  
キャスターを利用して移動する時には  
1. 傾いた所や凹凸のある道、じゃり道は避けてください。  
2. 走らないでください。楽器が止まらなくなつて、壁にぶつかるなどして大けがをするおそれがあります。

- ティンパニは重量物です。持ち上げて運ぶ際は、必ず2人以上で行なってください。  
また、その際は、必ずフレームを持ってください。



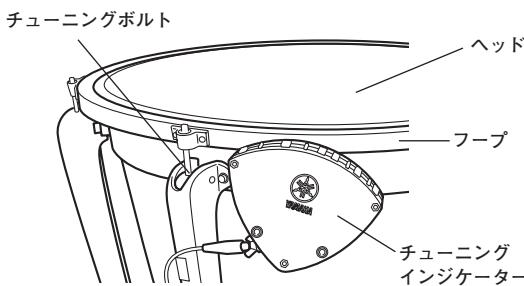
- 楽器を移動するとき以外は、必ずキャスターのストッパーを2ヶ所ともかけてください。  
楽器が移動したり倒れたりして、けがの原因となります。



## ⚠ 注意

### 取り扱い

 ペダルの操作中に、フープ、ヘッド、チューニングインジケーター、チューニングボルトに手を触れないでください。  
可動部のすき間に指などをはさまれてけがをするおそれがあります。



破れたヘッドはすみやかに交換してください。  
ヘッドの破れ目は鋭利ですから、手などを切る危険があります。



ティンパニの内部(チューニングインジケーター、ベース、フレームなどの内部)に手を触れないでください。



マレットは演奏目的以外には使用しないでください。

けがや事故の原因となります。お子様が人の身体をたたくなど、危険な行為をしないように注意してください。

- 不適切な使用や改造により故障した場合の保証は致しかねます。

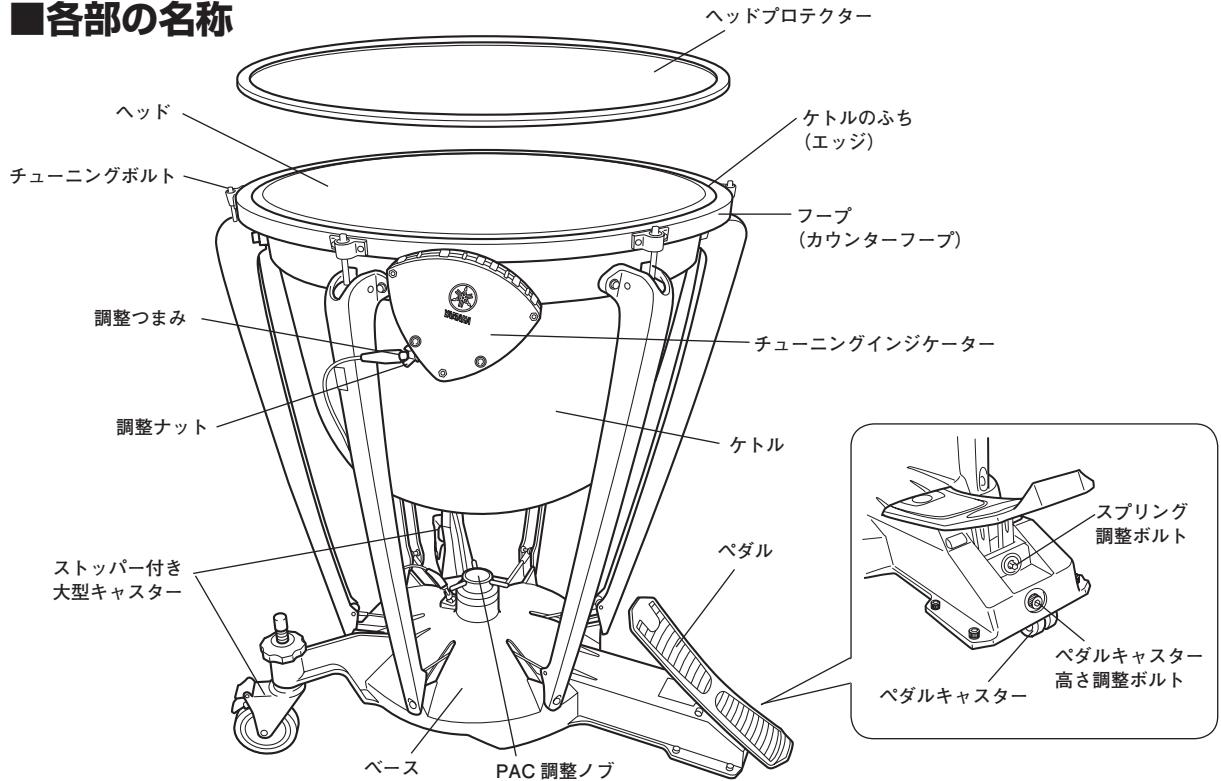
## 日常のお手入れ

- 本皮製以外のヘッドは、演奏終了時にヘッドを緩める必要はありません。演奏が終了したらペダルをかかと側に踏み下げ、最低音の状態に戻しておく程度で充分です。ただし、長期間使用しない場合は、若干緩めておいたほうがヘッドは長持ちします。
- 保管時は楽器にカバーを掛けてほこりを防いでください。また、ヘッドの汚れは柔らかい布で拭き、ヘッドプロテクターを使用して衝撃等からヘッドを保護してください。定期的に楽器全体をクロス等で拭きあげることにより、さらに楽器の良い状態を維持できます。
- ケトルは、ティンパニが音程感を作るうえで一番大事な部分ですので、決してぶつけたりへこませたりしないように注意してください。
- 楽器を移動させる際は、フレーム以外を持って移動しないでください。チューニングが狂うばかりでなく、フープのゆがみの原因にもなります。
- トラック等で移動する場合は、フープ等が他の楽器とぶつかることでヘッドやフープがずれてしまうことがありますので、ペダルをつま先側へ踏み下げ、ヘッドの張力を上げた状態で運んだほうが、狂いやずれが少なくなります。

日常のお手入れには、ヤマハお手入れ用品をご使用ください。

# 各部の名称&注油箇所

## ■各部の名称



※この取扱説明書中のイラストはすべてTP7300シリーズです。

### その他付属品

- ・チューニングキー ..... 1 個
- ・キー・レンチホルダー ..... 1 個
- ・六角レンチ ..... 1 本

### 危険

ペダルの下やベース部分のすき間、キャスターのすき間などの可動部分には、絶対に手や足を入れないでください。はさまれて大けがをするおそれがあります。

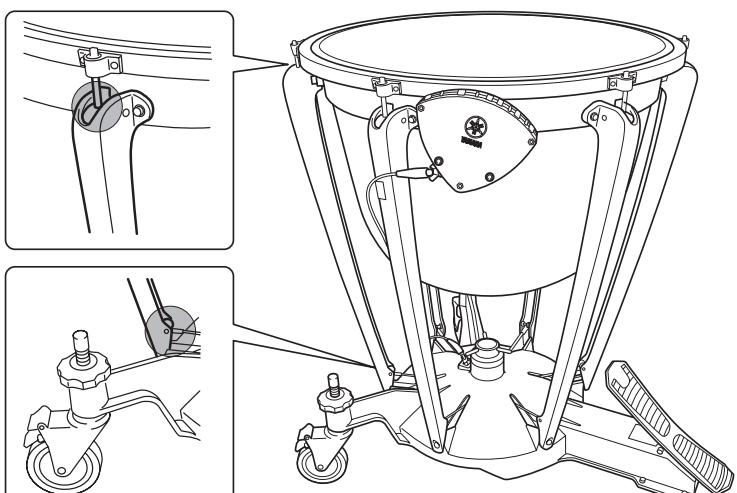
## ■注油箇所

年に1回は右図矢印の箇所に良質なグリス等を注油してください。

※グリスはスプレー式のものをおすすめします。

※注油箇所には直接手を触れないでください。

※日常のお手入れには、ヤマハお手入れ用品をご使用ください。

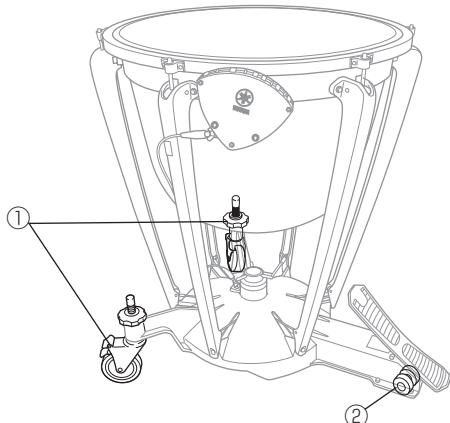


# ティンパニの設置

## ■キャスターの操作

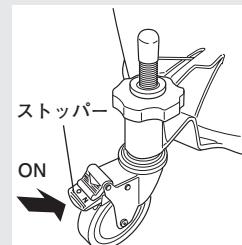
本楽器には以下の3台のキャスターが装備されています。

- ①ストッパー付き大型キャスター×2
- ②ペダルキャスター×1



### 危険

移動するとき以外は、ストッパー付き大型キャスターのストッパーを2ヶ所ともかけてください。



ストッパーをかけずに演奏すると、演奏中に楽器が移動したり、雑音の原因になったりします。また、ストッパーをかけない状態でチューニングやペダル調整、PAC調整を行なうことは大変危険です。思わぬ楽器の移動や転倒によりケガをするおそれがあります。

## ■打面角度の調整

3台のキャスターは、それぞれ高さ調整ができるので、打面の高さや角度を調整することができます。

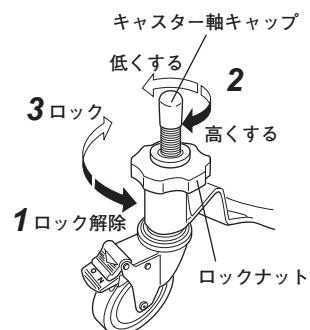
※作業は2人以上で行なってください。

### 【ストッパー付き大型キャスター】

1 キャスター上部のロックナットを左(逆時計方向)へ回してロックを解除します。

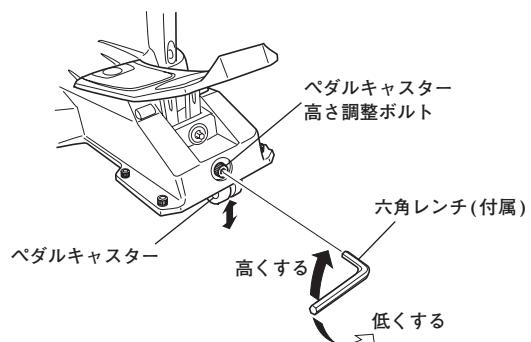
2 キャスターを少し持ち上げ、キャスター軸キップを回して高さを調整します。左(逆時計方向)に回すと低くなり、右(時計方向)へ回すと高くなります。

3 ロックナットを右(時計方向)へ回してロックします。



### 【ペダルキャスター】

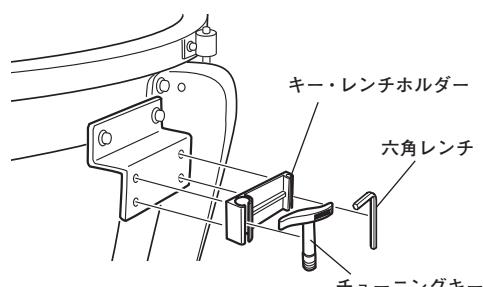
付属の六角レンチでペダルキャスター高さ調整ボルトを右(時計方向)へ回すとペダルキャスターが高くなり、左(逆時計方向)へ回すと低くなります。



## ●キー・レンチホルダーの取り付け方

チューニングインジケーターの反対側の取付金具にホルダーを差し込み、チューニングキーや六角レンチを固定することができます。

※ホルダー背面の粘着テープの保護紙をはがし、取付金具にしっかりと貼り付けて固定してください。

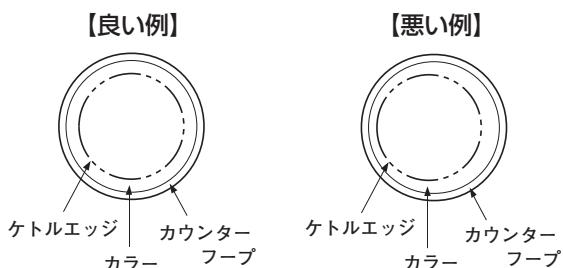


# ペダルティンパニをお使いになる前に

ヤマハペダルティンパニは、ヘッドがチューニングされ、すぐにでも使用できる状態に調整されて工場より出荷されます。しかし新しいヘッドのフィルムは伸びやすいので、お客様のお手元に届くまでの間にチューニングや調整の状態が変わってしまいます。

以下の手順に従って、伸びたヘッドを工場出荷時と同じ状態に再び張っていただければ、正しく調整された状態でご使用いただけます。

- 1** ケトルのふち（エッジ）と、カウンターフープの内周との間の部分を“カラー”と呼びます。下図の【良い例】のように、このカラーの幅がどこも同じであることを確認してください。



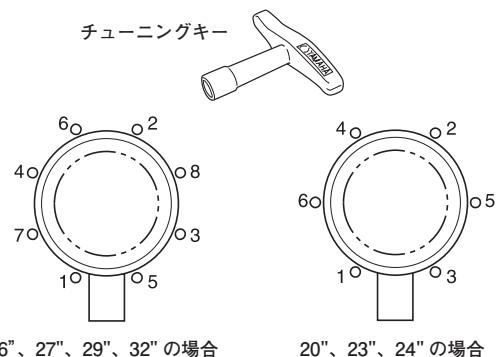
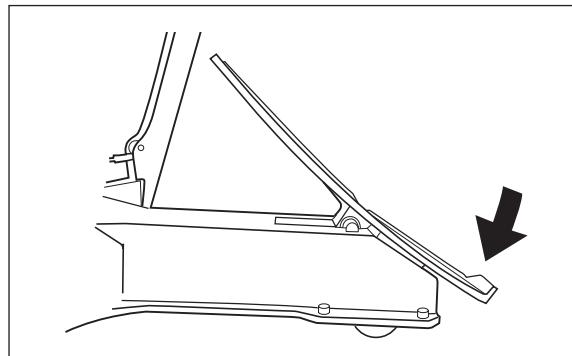
カラーの幅が均一でない場合は、ペダルのかかと部分をいっぶいまで踏み下げたまま、ヘッドとフープを【良い例】のような位置に動かします。

## 危険

ペダルの下やベース部分のすき間、キャスターのすき間などの可動部分には、絶対に手や足を入れないでください。はさまれて大けがをするおそれがあります。

- 2** ペダルのかかと部分をいっぶいまで踏み下げたまま足を離さずに、付属のチューニングキーを使って、チューニングボルトを下図の順番に1/4回転(90度)ずつ締めていきます。

チューニングボルトは、同じ量ずつ締めることが重要です。



26", 27", 29", 32" の場合                            20", 23", 24" の場合

- 3** ペダルから足を離してください。

- ペダルのかかと部分が上がりてくる場合  
→ 手順**2**と**3**を繰り返します。
- ペダルのかかと部分が下がったままの場合  
→ 次の手順**4**へ進みます。

**4** ペダルに足を乗せて、ペダルを往復（つま先いつぱいまで下げた後、かかと部分をいっぱいまで下げる）させます。

- ペダルのつま先を踏み下げるときと、かかとを踏み下げるときの力が均等に感じる場合

→ 手順 **5**へ進みます。

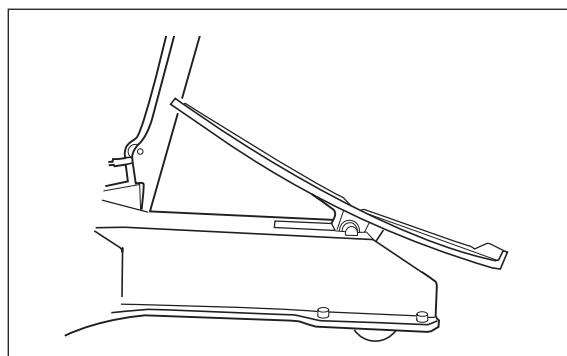
- ペダルのつま先を踏み下げるときよりも、かかとを踏み下げるときの方が軽く感じる場合（※1）

→ ヘッドの締めすぎです。少しゆるめてください。まず、ペダルのかかとを踏み下げたまま足を離さずに、チューニングボルトの1本を1/2回転ゆるめた後1/4回転締めます。他のチューニングボルトも同様に手順**2**と同じ順番でゆるめます。締めすぎの状態が改善されるまでこれを繰り返したら、手順 **5**へ進みます。

- ペダルのつま先を踏み下げるときよりも、かかとを踏み下げるときの方が重く感じる場合

→ ヘッドの締め不足です。ペダルのかかとを踏み下げたまま足を離さずに、手順 **3**と同じ順番でチューニングボルトを1/8回転（45度）ずつ締めていきます。締め不足の状態が改善されるまでこれを繰り返したら、手順 **5**へ進みます。

**5** 数の様にペダルのかかと部分とつま先部分の両方を浮かせた状態にし、足を離します。ペダルがそのまま動かないかどうか確認してください。

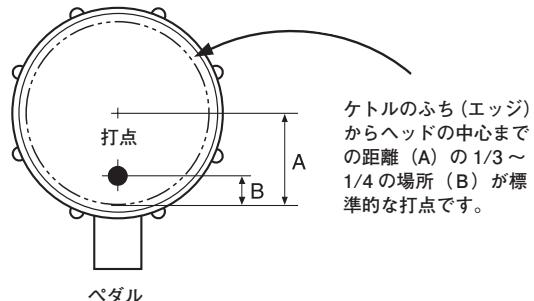


- ペダルが静止していれば調整完了です。次の手順 **6**へ進みます。

- ペダルのつま先が下がるようにペダルが動く場合

→ ヘッドの締めすぎです。手順 **4**の（※1）の方法でヘッドをゆるめてください。

**6** マレットで、ヘッドを軽くたたいてみましょう。打点（たたく位置）は下図の通りです。



ペダルのつま先部分を踏み下げるからたたくと、音が高くなります。

さらに正確に音程を合わせたい場合は、次ページの『ティンパニの音程の合わせかた』をご覧ください。

ご使用後もヘッドは伸びていきますので、時々手順**4**以降の調整をしてください。

# ティンパニの音程の合わせかた

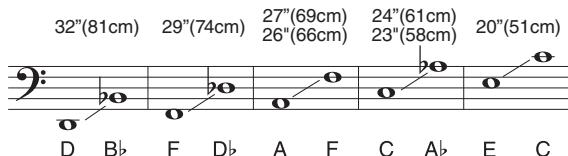
未使用（入荷されたまま）のペダルティンパニをお使いになる場合は、必ず最初に6～7ページの『ペダルティンパニをお使いになる前に』の手順に従って調整を行なってください。

## ■ヘッドのチューニング \* (\*ある音程をだすためにヘッドを張ること)

**1** チューニングはティンパニの最低音（ペダルのかかと部分を下いっぱいまで踏み下げた状態）に対して行ないます。

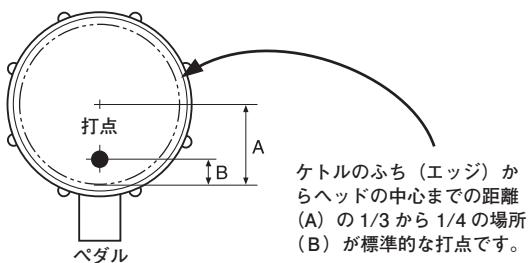
ティンパニのサイズによって、それぞれ適正な最低音（と音域）があります。下図のように、たとえば29インチのティンパニでは最低音をFにチューニングしたときに、最も無理のない状態でヤマハティンパニをお使いいただけます。

### ヤマハティンパニの標準的な音域



以下の手順2から7までについては、特に記述がない限り、ペダルのかかと部分を踏み下げたまま行なってください。

**2** ヘッドをたたいて音程を確認してください。下図はティンパニの打点（たたく位置）の標準例です。



### ●設定したい音程より低い場合

→ 次の手順**3**に進んでください。

### ●設定したい音程より高い場合

→ 6ページの手順**2**の図の順番に、チューニングボルトを同じ量ずつゆるめます。ゆるめる際は、まず、ゆるめたい量の倍ゆるめてから、半分戻す（締める）ようにします。設定したい音程よりも半音内低くなるまでゆるめたら、次の手順**3**に進みます。

**3** 各チューニングボルトの近くのケトルエッジから5cm以内の内側をマレットで軽くたたき、どの場所が一番高く響くか調べます。

### ●この一番高い音が、設定したい音よりも高い場合（※2）

→ その場所のチューニングボルトだけを1/8回転から1/16回転位ゆるめます。ゆるめる際は、まず、ゆるめたい量の倍ゆるめてから、半分戻す（締める）ようにします。設定したい音程よりも半音内低くなるまでゆるめたら、次の手順**4**に進みます。

### ●この一番高い音が、設定したい音よりも低い場合

→ 次の手順**4**に進んでください。

**4** 一番高い音に合わせるように、他のボルトを少しずつ（1/8回転から1/16回転位）締めていきます。ただし、ボルトをひとつ締めると、その隣や向かいのボルト付近の音程も上がりりますので、一番音の低い場所のボルトを少し締めたら、各ボルト付近の音程を再び確認し、一番音の低い場所のボルトを少し締めます。基準とした一番高い音のボルトには触れないようにします。

**5** 締めすぎたボルトは、手順**3**（※2）の要領でゆるめます。すべてのボルト付近の音程がある程度同じになつたら、ペダルを2～3回往復させます。

**6** すべてのボルト付近の音程が完全に同じになるまで、手順**3**から**5**を繰り返します。

**7** 手順**2**の要領でヘッドをたたいて、音程を確認します。

- **設定したい音程より低い場合**

→ すべてのボルトを同じ量ずつ(1/16回転以下)締めて、音程を合わせます。

- **設定したい音程より高い場合**

→ すべてのボルトを手順**3**(※**2**)の要領で、同じ量ずつ(1/16回転以下)ゆるめて、音程を合わせます。

**8** 手順**5**の要領でペダルを往復した後も音程が変わらないことを確認したら、完了です。

(音程が変わったら、手順**7**に戻ります。)

これで最低音を、希望する音程に合わせることができました。全体の音程を上げるには、ペダルのつま先部分を踏み下げます。

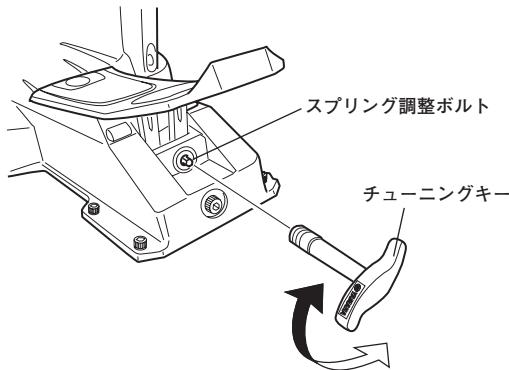
**9** 引き続き『ペダルの調整』(10ページ)を行なってから、『チューニングインジケーターの調整』(11ページ)を行ないます。

# ペダルの調整

「ペダルバランスの調整」および「ペダルトルクの調整」の前に、ティンパニが正しくチューニングされていることを確認してください。

## ■ペダルバランスの調整

ペダルを往復させてから、以下のようにしてスプリング調整ボルトを回してください。



- ペダルのかかと部分を踏み下げる足を離すとペダルのつま先側がはね上がる場合、またはペダルのつま先部分を踏み下げるのにくらべてかかと部分を踏み下げる方が重く感じる場合  
→ スプリング調整ボルトを左(逆時計方向)に回してください。
- ペダルのつま先部分を踏み下げる足を離すとペダルのつま先側がはね上がる場合、またはペダルのかかと部分を踏み下げるのにくらべてつま先部分を踏み下げる方が重く感じる場合  
→ スプリング調整ボルトを右(時計方向)に回してください。

スプリング調整ボルトは、付属のチューニングキーで回します。一度に何回も回さずに、2回転ごとにペダルを往復させて、様子をみながら調整してください。

### 危険

ペダルの下やベース部分のすき間、キャスターのすき間などの可動部分には、絶対に手や足を入れないでください。はさまれて大けがをするおそれがあります。

### 注意

スプリング調整ボルトは、一度に3回転以上ゆるめないでください。ペダルのつま先側がいっさく下がることがあります。

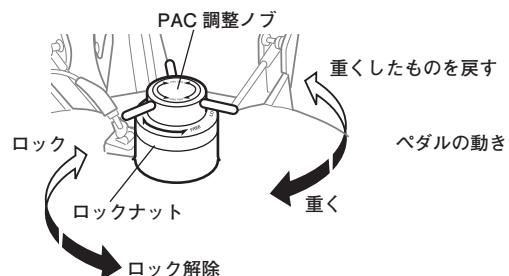
## ■ペダルトルクの調整(PAC)

(TP8300/7300シリーズのみ)

本楽器のペダル機構には、ペダルのバランスを維持したままペダルトルク(ペダルの重さ)を調整することができるPAC(Pedal Adjustment Clutch)が採用されています。PACはヤマハ独自のメカニズムです。

### 【PACの調整】

- 1 PAC調整ノブの下にあるロックナットを左(逆時計方向)に回してロックを解除します。



- 2 ペダルの動きを重くする場合は、PAC調整ノブを右(時計方向)へ回します。  
ペダルの動きを重くした後で元に戻すには、PAC調整ノブを左(逆時計方向)へ回します。  
※ 調整は必ず片手で行なってください。両手で回したり、工具等ではさんで回すことはおやめください(PACが破損します)。

- 3 調整ができたら、ロックナットを右(時計方向)に回してロックしてください。

## —PAC取り扱い上の注意—

- PACを最も強くした場合でも、ペダルはロックされたわけではありません。「ヘッドを外した際にペダルのかかと部分がはね上がるのを防ぐため」等の目的では使用しないでください。
- PAC調整ノブには、右方向に回転する限界点があります。回していく回転がしにくくなったら、無理に回さないでください。機構が破損するおそれがあります。

# チューニングインジケーターの調整

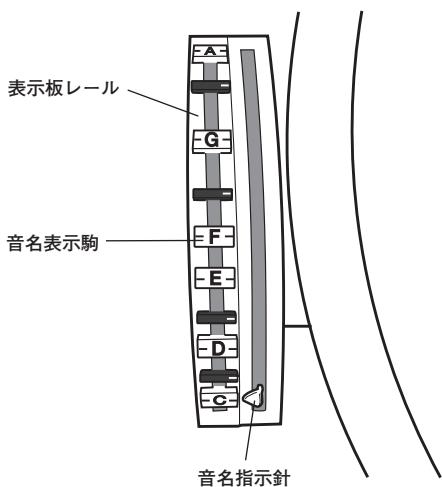
チューニングインジケーターは、チューニングペダルを踏むことによって変わるヘッドの音程を、視覚的に表示するものです。チューニングが完了したら、音名表示駒を正しい位置にセットします。

- 1** 最低音にチューニングした状態で、インジケーターの音名指示針が、表示板レールの下から2～3mmの位置にあることを確認してください。  
※ そうではない場合は、『音名指示針位置の合わせかた』の手順に従って調整してください。

- 2** チューニングインジケーターの音名指示針が示す位置に、一番下の音名表示駒(23インチではC\*)を移動させます。

\*『ヤマハティンパニの音域』(8ページ参照)

- 3** ペダルで最低音から順に各音程にチューニングしてゆき、そのつど音名指示駒を指示針の位置にスライドさせて合わせます。



## ■音名指示針の位置の合わせかた

最初に調整ナットをゆるめてから、以下の手順で調整つまみを回してください。

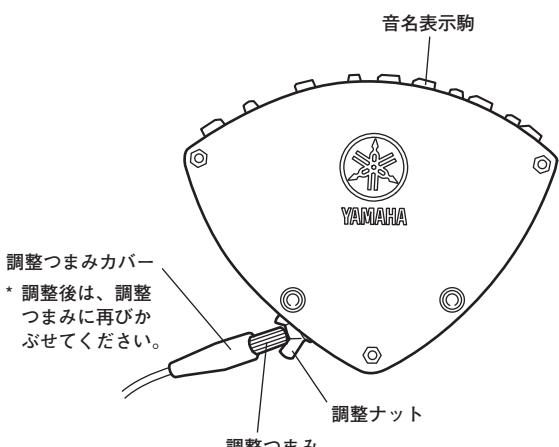
- 最低音にチューニングした状態で、インジケーターの音名指示針が下に振り切ってしまう場合

→ 調整つまみを左に回し、音名指示針を最低音の音名表示駒に合わせます。

- ペダルを踏み込むまでに、音名表示針が下に振り切ってしまう場合

あるいは、最低音にチューニングした状態で、指示針がレールの一番下付近まで来ていない場合

→ 調整つまみを右に回し、音名指示針の位置を調整します。

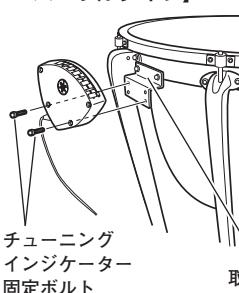


## ●チューニングインジケーターの付け替え方

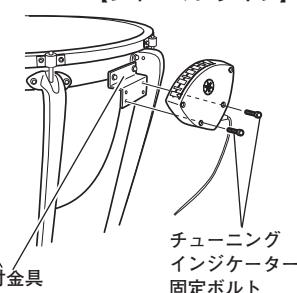
出荷時、チューニングインジケーターはユニバーサルタイプでセットされていますが、ジャーマンタイプにセットしなおすことができます。右図の様にチューニングインジケーター固定ボルト2本を付属の六角レンチで外し、インジケーターの逆の面から固定ボルトを差し込んで反対側の取付金具に付け替えます。

いずれの場合も、インジケーター上面の音名指示駒が正しく見える向きに取り付けてください。

【ユニバーサルタイプ】

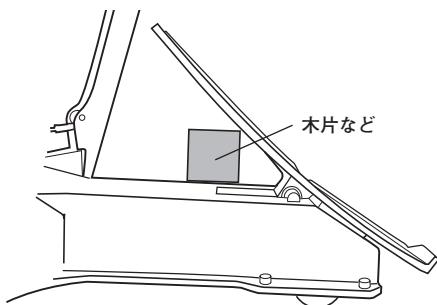


【ジャーマンタイプ】



# ヘッドの交換

- 1 スプリングの力でペダルが急に下がるのを防ぐため、ペダルのかかと部分を踏み下げる状態で、ペダルとベースの間に木片などを挟みます。

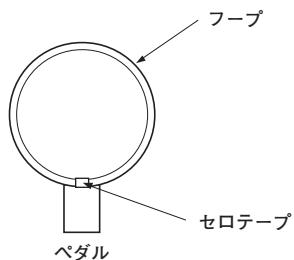


## 危険

チューニングボルトをゆるめる（ヘッドをゆるめる）際、絶対にペダルに手を触れないでください。また、ペダルの下やベース部のすきま、可動部分にも絶対に手や足を入れないでください。スプリングの力でペダルが急に動き、大変危険です。

- 2 チューニングボルトを交互にゆるめ、外します。その際、フープのペダル側にセロテープ等で印を付けることをおすすめします。フープを再び取り付ける際に、同じ位置に取付ることができます。

※ チューニングボルトのネジ部にはグリスが塗られていますので、手を触れないようにしてください。



- 3 フープとヘッドと一緒に取り外します。  
※ フープをケトルのエッジなどに当てないよう注意してください。

- 4 ケトルのエッジにはエッジテープが貼られています。ティンパニの動作においては、エッジが滑らかであることが大変重要です。エッジテープを傷付けないよう、ほこりやゴミを除去してください。

※ エッジテープをはがしてしまったり、テープの傷みが激しい場合は、別売のティンパニ用エッジテープに貼り換えてください。

- 5 新しいヘッドとフープをケトルに乗せます。ヤマハティンパニ用ヘッドをご使用になる場合は、ヘッドのYAMAHAマークがペダルと反対側に来るよう向きを合わせます。

フープは、手順2で付けた印をめやすに、外す前と同じ向きにします。ヘッドが軽く張るまでチューニングボルトを指などで交互に締めます。この際、ヘッドとフープがケトルの中心に位置するように注意してください。

次に、チューニングキーを使ってチューニングボルトを1/4回転ずつ締めます。これを最低4回繰り返します。

- 6 6～7ページの『ペダルティンパニをお使いになる前に』の手順2以降に従ってチューニングを行ない、さらに正確に音程を合わせたい場合は、8～9ページの『ティンパニの音程の合わせかた』に従ってください。

## ヘッド交換のめやす

ヘッドを軽く張った状態で、ヘッド面が波打つていたり、凹凸が見られたら、交換の時期です。使用状況にもよりますが、ヘッドの寿命は、長くても1～2年です。音色が損なわぬうちに、早めに取り換えましょう。

2年以上張ったままのヘッドを使用すると、

- ・適正な音域にチューニングできない。
- ・ペダルのバランス調整ができなくなる。
- ・本体の機構自体に損傷を与える。

などの原因となります。できれば毎年交換することをおすすめします。